



栄小学校だより

令和5年1月12日(木) No.36

○3学期が始まりました。

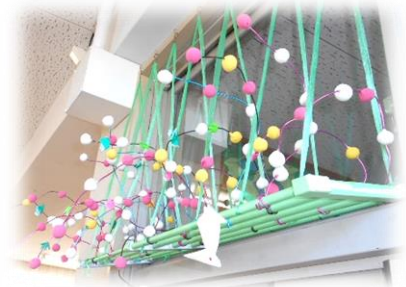
あけましておめでとうございます。旧年は、保護者や地域の皆様方の多大なるご理解・ご協力をいただき大きな事故なく、学校運営を行うことができました。感謝申し上げます。令和5年 兔年もよろしくお願ひいたします。全国的に新型コロナウイルス感染症が再拡大しています。三重県においても同様に年末年始に感染拡大が見られています。栄小学校では、3学期も引き続き、マスクの着用や手洗いなど感染防止対策に取り組んでいきますので、ご家庭においても毎日の検温や体調不良が見られましたら無理をしないなど、ご協力いただきますようお願いいたします。



1月10日(火)より3学期がスタートしました。朝の登校見守りで元気よく「おはようございます！」と笑顔であいさつをする子どもたちを見てみると、「生きるエネルギー」をもらっている感じがしてうれしく思います。始業式では、校長より令和5年(2023年)の目標や4月から一つ学年が上がるための準備の話をしました。土日祝日の関係で例年より少しだけ長かった冬休みが終了し、楽しい学校生活が始まります。

○図書室の掲示が正月模様

新年に合わせて読み聞かせボランティアの皆さんが、図書室の掲示を「お正月」をテーマにしたものにしていただきました。鳳凰や夫婦岩をいれていただいたデザインで、とても気持ちが温まります。利用の時にじっくりとこの掲示を見てください。とても素晴らしい作品です。



○読み聞かせ(2年)

1月12日(木)、2年生が朝の会でボランティアさんによる読み聞かせに参加しました。ほぼ毎週木曜日に学年順で朝の会で行っていただいている「読み聞かせ」も3学期を迎えました。

子どもたちは、ボランティアさんの読む絵本に集中して取り組み、目を輝かせながら本を楽しんでいました。



○地区別児童会を開催しました。

1月11日(水)の3限目に「地区別児童集会」を各教室で行いました。

今回の児童集会は、「冬休みの反省と3学期の生活について」をテーマに①生活についての振り返り、②自転車の乗り方等の交通ルールについて、③各地区での様子等をみんなで話し合いました。また、併せて普段の登校についてのルール確認も行いました。

その後、地区別担当の先生と一緒に「一斉下校」を行い、通学路の安全点検や地域でお世話になっている「子どもを守る家」(緊急避難場所)の確認を行いました。

新年になり、卒業を控えた6年生が通学班で登校するのも、2カ月余りとなりました。6年生をはじめとする班長・副班長のみなさん、いつも通学班をまとめてくれてありがとう。



☆特集 保護者に向けた「親塾シリーズ」No.10

「保護者が子どもの家庭学習(宿題+α)を定着させる方法」

(1)生活設計をたてる

小学生低学年のころから、起床・就寝・学習・遊び・テレビなどの一日の計画表を親子の話し合いで作り、生活をリズム化するようにします。そして、その計画を「自分との約束」として必ず守るようにさせることが大切です。中・高学年であっても、一日の生活リズムが整い、きちんとした生活習慣ができていないと、効果的な家庭学習ができないことにも注意が必要です。

(2)学習の習慣をつける

家庭学習は、計画表に基づいて、決まった時刻に、一定の時間、一定の場所でするのが、最も望ましいことです。低学年のうち一日の生活の一環としての学習の時間を短時間でもとり、学習する習慣をつけることは、今後の家庭学習を定着させるために、最も大切なことです。家庭学習の習慣がついていない子は、次第に学校の授業についていけなくなります。そうならないためには、毎日机に向かって勉強する習慣をつけさせることが必要です。

1日の勉強時間は、最低でも「学年×10分」ですが、理想は「学年×20分」です。ただし、家庭学習の習慣がついていない場合、初めから長時間勉強するのは無理があります。まずは、短い時間でいいから机に向かうことを日課にし、少しずつ時間を伸ばしていきましょう。中学年以上になると、学習の習慣化には最低でも3ヶ月はかかりますから、親子共々かなりの努力と根気が必要となります。最初のうちは、上手にほめたりおだてたりしながら、子どもをその気にさせなければ、なかなか勉強はしません。でも、毎日の学習の積み重ねによって、わかる楽しさを知れば、だんだん勉強する意欲がわいてきて、親が言わなくても自分の意思で勉強をするようになってくるものです。

(3)何を学習するかを明確にする

子どもに「勉強しなさい」といくらいっても、何を勉強したらよいかわからなければ、家庭学習はできません。宿題がなければ勉強しないという、受け身で、しかも、むらのある学習しかできなくなってしまいます。家庭学習を意欲的にさせるためには、子どもに「いつ、何を、どのように」するのかを明確にしてやる必要があります。それには、学校の授業にぴったり合った家庭学習教材を使うのも、効果的なやり方です。本屋に適切なワーク・問題集などがあります。子どもの理解度に応じて購入し、「宿題+α」のαの部分にしてください。